

第8回 土木科学シンポジウム開催案内

テーマ「河川と社会の再設計」

■ 実行委員会

安田 浩保 新潟大 災害研
河川工学

早坂 圭司 新潟大 理学部
素粒子実験物理学,ビッグデータ

村松 正吾 新潟大 工学部
信号処理

■ 主催・協力・後援

・ 主催

ARCEプロジェクト

・ 協力

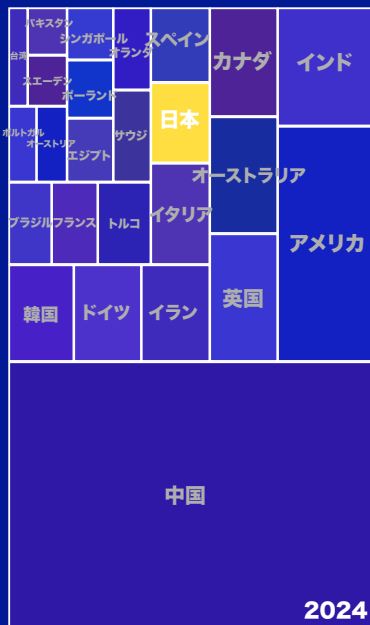
新潟大 BDA研究センター
新潟大 UA室 URA
JST CREST 予測数学基盤
科研費 学術変革領域(A) MSMI

・ 後援

水ラボコンソーシアム
和合館工学舎

■ 問合せ先

安田 浩保
hiro@gs.niigata-u.ac.jp
025-262-7053



この図は各国から2024年に発表された土木工学関連の論文数の占有率。我が国の土木工学の研究生産力は先進国中で最低水準。この問題の原因は土木分野の博士取得者数が少ないことである。現状を放置すれば、計画系業務や教育機関の維持が困難となる。

土木分野は、技術革新と人材育成に苦慮する状況にあります。一方で、過去の多くの技術革新は、社会もしくは技術の転換点で起きました。河川分野では、流域治水が開始され、また、社会全体に人工知能が浸透し、まさに**技術革新と人材育成の好機**と言える状況にあります。しかし、この好機が十分には活用されていると言えないと思います。

これまで本会では、最先端の科学を共通項とし、開催を重ねてきました。本年のテーマは、100年以上にわたり常識となってきた流れの状態は二分できるとする概念を刷新する「擬似層流」という新しい流れの発見と、素粒子ミュオンを用いた観測対象の拡大の動きを踏まえ、「河川と社会の再設計」とすることにしました。前者の擬似層流は、教科書の基礎知識に疑いを持ち、先端的な計測法を愚直に適用することにより発見したもので、治水の核心である「**水位の低減**」を**可能とする「流し方の設計」**を実現する可能性を秘めるものです。これに加え、従来の物理モデルに依存せず、**データ駆動による水位の長期間の予測手法**を構築しつつあります。昨年同様に、本会の趣旨説明、最新の研究成果の紹介、関連研究室の学生によるポスター発表を予定しています。

この1年間、建設関連業界の各所より、以前に増して人材の育成と確保が困難になってきているという声を多く聞きました。この中で、「業界の魅力の発信」に失敗していることが要因の一つではないかという仮説をたびたび聞きました。本会の最後に全体討論の時間を設け、会場全体で、どのようにすれば業界の回復や体質改善ができ、技術革新の推進や人材確保に繋がられるかについて考えたいと思います。

日時・会場

2025年11月14日（金）13:00-18:00（12:00から受付開始）

朱鷺メッセ 4階 国際会議場

新潟市中央区万代島6番1号 TEL.025-246-8400

1. シンポジウム（13時00分から18時00分、当日参加可、無料）

開会挨拶・趣旨説明：安田 浩保（新潟大学、水ラボ共同代表）

第一部 研究成果発表（13時10分－14時30分）

講演 1：新しい河道状態の評価パラメータ（新潟大 安田研D3・田所 祐輝）

講演 2：擬似層流の発見とその工学応用（新潟大 安田研D2・仮澤 広晃）

講演 3：グラフ理論による水位の長期間予測（新潟大 村松研M2・伊藤 隆人）

講演 4：河道制御のためのデジタルツイン（新潟大 村松研M1・青木 竜成）

第二部 ポスターセッション（14時30分－15時50分、二部制・奇数・偶数）

関係研究室の学生および実務技術者の研究紹介

第三部 招待講演（15時50分－16時35分）

講演 1：ミュオンを用いた材料開発（KEK 竹下聡史）

講演 2：物理分野における魅力発信と人材育成（新潟大 早坂圭司）

第四部 基調講演＋全体討論会（16時35分－17時40分）

・「魅力って何だ？－1%の挑戦者と技術革新－」（新潟大 安田浩保）

・会場参加者との全体討論会

優秀ポスター賞発表および閉会挨拶：小野 貴史(小野組、水ラボ共同代表)

2. 懇親会（18時30分から2時間程度、要事前申込、会費制）

開催開場：日航ホテル・30階 鳳凰（詳しくは別途ご案内）